

わが校の紹介

「こころ豊かに
やる気・根気・元気が
輝く建屋っ子の育成」

養父市立建屋小学校

校長 西谷博幸

激しく変化する時代の大きなうねりの中で、旧三谷小・建屋小の2校統合小学校が開校して早くも1年が経とうとしています。旧小学校は共に132年の歴史と伝統を持ち、その礎のもとに本校が誕生しました。今日に至るまで地域の方々が様々な思いをめぐらす中で、未

来を託す子どもたちへの夢と希望をという願いが校舎にも色濃く表れています。

教育活動としては、米作りや和太鼓演奏等、2校の特色を生かした活動に取り組んでいます。米作りは、地域の寿老会の方々に協力・支援をいただき、5年生を中心に全校生が活動しています。11月のオープンスクールでは、地域の方の力添えをいただき、収穫米を使った「おはぎ作り」で収穫を祝いました。

和太鼓演奏の継承は全校生で行い、統合初年度の運動会で初披露。1・2年生は「まつり太鼓」、3・4年生は「子どもばやし」、5・6年生は「ぶちあわせ太鼓」を演奏し、広々とした運動場で

保護者をはじめ多くの方から拍手喝采をいただきました。これは、建屋の谷間に和太鼓の響き

がこだまし、聞いている人々に感動と勇気を与えるものでした。また、福祉施設の訪問でも和太鼓を演奏し、交流を深めています。やる気・根気・元気が輝く子どもたちの姿から、訪問先の方からは「生きる力をいただいた」と好評でした。これらは、子どもたちにとっても大きな励みとなっています。

子どもたちが故郷の歴史と伝統・文化、風土、温かい人情に育まれ、夢と希望を持って力強く生き抜くことができる人づくりをめざして、今後とも夢と感動のある教育活動を推進します。



▶収穫したお米を使って「おはぎ」を作りました（オープンスクールにて）

まちの文化財 ⑱

尾原の国道改修記念碑

関宮地域の尾原に国道改修の記念碑が建てられています。明治45年7月の建立で、自然石の表面に兵庫県知事・服部一二氏の書によって、「記念碑、為片岡寿左衛門翁」と彫ってあります。

現在の国道9号線は、関宮から但馬トンネルを抜けて香美町村岡区福岡に続いています。このルートは江戸時代の山陰道で、明治9

年に国道23号線となりました。明治18年に道路幅12尺（3・6m）の国道として整備されました。

しかし明治32年、距離が約5キロも長くなる吉井・葛畑・大野峠を通るルートに変更になりました。これは当時、関宮村の初代村長であった片岡寿左衛門氏（後に県議会議員・養父市議）が、「関宮村縦貫」ルートとして国道



を変更し、関宮村西部地域の振興の柱にしようとして推進したことになります。

明治32年6月の関宮村の村会議

事録には、「漬地・家屋移転及び障害物取除費用」の地元負担の予算案が議決されています。事業費は2528円で、直

接利益を受ける吉井や出合の負担が大きくなっています。

多額の地元負担によって国道は葛畑ルートになり、関宮から福岡までの各地区の利便が向上しました。特に尾原から鹿倉口の間は、急傾斜な岩盤を掘って道路を新設する大変な工事でした。

昭和43年、国道は70年ぶりに但馬トンネルルートに戻りましたが、現在も葛畑・大野峠ルートは、別宮や鉢伏高原へ向かう観光バスが利用する重要な産業道路となっています。

（社会教育課）

窓 食事の中でのしつけ

昔から、食事のマナーは子どもへの「しつけ」として家庭で重視されてきました。また食事中は、子どもといろいろな話ができる絶好の機会でもあります。しかし、その家族団らんの間である食事の方法に乱れが出てきているようです。その一つにバラバラ食事があげられます。

これには大きく分けて二つあります。一つは、家族が一緒に食わずにバラバラで食べていること。もう一つは、家族一人ひとりの食べているものがバラバラなこと。家族が同じものを食べ、その中でいろいろなコミュニケーションがとれるのです。

しかし、各自が好きなものだけを食べてしまうと好き嫌いが定着し、偏った食生活になっていくのを増長することにもなります。

食は、子どもの心身の成長や人格形成に大きな影響を及ぼし、豊かな人間性を育んでいく基礎となるため、昔から「しつけ」を大切にしてきたと思われまます。家族一緒に同じものを食べることも一つのマナーとして、家庭ですつけていきたいものです。

（学校教育課）